



# 「震災と防災を考える1か月」 おもな番組

NHKでは“防災の日”を中心に、8月下旬から9月にかけて、テレビ・ラジオの各波で震災と防災を考える特集番組を集中編成します。

**総合テレビ**では、防災や震災をテーマにした「NHKスペシャル」をはじめ、「明日へ—支えあおう—」や復興支援ソング「花は咲く」の特集番組などを予定しています。

**Eテレ**では、未来へと踏み出す被災地の若者たちを後押しする「東北発☆未来塾スペシャル」や、親子で地震に対する備えを楽しく学ぶ「BOSA | スペシャル」などを放送します。

**ラジオ第1**では、さいたま放送局に新設される「緊急時災害スタジオ」から生放送を行うとともに、関西からは南海トラフ巨大地震に備える特別番組を放送します。

これらの、波の特性をいかした番組ラインナップで、防災、そして震災復興に多角的に向き合います。

## 総合テレビ

### 【NHKスペシャル】

#### ★MEGAQUAKE Ⅲ 巨大地震

地震学がたどり着いた最新の知見、超巨大地震のメカニズムのCG、詳細なシミュレーション、世界各地のルポも交え、次の巨大地震に迫るドキュメンタリーシリーズ「MEGAQUAKE 巨大地震」の第3シリーズ。4月に引き続き、**第3回・第4回を2夜連続**でお届けする。

#### 第3回「よみがえる関東大震災 ～歴史的都市災害の教訓～」(仮)

8月31日(土) 後7:30～8:43

関東大震災を徹底的に検証し、日本の首都の地下に潜む“プレート境界型地震”の脅威に迫る。

1923年(大正12年)9月1日、首都圏を襲った巨大地震・関東大震災。東京市街は火の海となり、10万5千人もの命が一瞬にして奪われた。今年の9月1日はその90年目の節目の命日にあたる。私たちの祖父母が生きた時代の未曾有の災害でありながら、すでに記憶の風化は甚だしい。

あの日、どんな揺れが襲い、多くの命がどこでどのようにして奪われたのか。最新の科学的知見や、未整理のまま残されている膨大な映像資料、そして存命する被災者達の証言を徹底的に洗い出し、ドラマやリアルCGなどを駆使しながら「あの日」の完全再現に挑む。更に、もし今、関東大震災と同じ“プレート境界型地震”が首都圏を襲ったときに何が起こるのか。現代の都市が抱えたリスクを科学的に検証する。



関東大震災直後の東京・京橋の様子

#### 第4回「南海トラフ “胎動”をつかめ」(仮)

9月1日(日) 後9:00～9:49



ひとたび巨大地震が起きれば、日本列島に甚大な被害をもたらす南海トラフ。地下深くのプレート境界で、岩盤が非常にゆっくり動くことによって起こる「微動」と呼ばれる現象が起きていることが最新の観測技術によって、わかってきた。

こうした現象が巨大地震とどんな関係があるのか。科学者たちは急ピッチで解明を進めている。その中で、東日本大震災の直前の1か月間に、巨大地震の震源のすぐ東側で「微動」が続いていたことが明らかになってきた。巨大地震の引き金になっただけでなく、津波を巨大化させる要因にもなっていたのではないかと考えられ始めている。南海トラフでも、同じように「微動」が起きている場所で、巨大津波が引き起こされる恐れがないか、危機感が高まっているのだ。

最新の科学によって捉えられた南海トラフの“胎動”を手がかりに、巨大地震の謎に挑む科学者たちを追う。

## ★震災ビッグデータ File.2

### 「復興の未来地図」(仮)

9月8日(日)

後9:00~9:58

東日本大震災に関するビッグデータを手がかりに、未来への教訓や復興への課題を描き出していく「震災ビッグデータ」の第2回。

2年前、「震災倒産」の危機を乗り越え再建に踏み出した多くの被災地企業が、今、新たな倒産の危機に直面している。補助金などを活用し、設備の復旧を果たしたにもかかわらず、業績悪化に追い込まれる企業が相次いでいるのだ。自治体の担当者は「早晩、深刻な事態になるが打開策がわからない」と危機感を募らせている。

しかし、今回NHKが提供を受けた全国70万社もの膨大な企業データを解析していくと「復興を阻む壁」、そして「未来へのヒント」が浮かび上がってくる。



### 【その他の特集番組】

#### 特集 明日へー支えあおうー(仮) ※生放送

9月1日(日) 総合 前10:05~10:53、後1:05~3:00

被災地の声や復興への取り組みを紹介している「明日へー支えあおうー」。仙台放送局をキーステーションに、岩手、宮城、福島などと結びながら生放送でお届けする。キャスターは三宅民夫アナウンサーと仙台放送局の合原明子アナウンサー。

午前は、311その日の体験を後世に伝える「証言記録 東日本大震災」。宮城県多賀城市の“産業道路”で津波に遭遇した人たちの証言に耳を傾け、都市型災害に備える礎とする。

午後のテーマは「被災地の今を知っていますか?」。東北管内で放送してきた番組「被災地からの声」で集めた生の声を紹介しながら、被災地で生まれた防災の知恵や工夫、生きる力、そして復興への新たな一歩などをクイズ形式の演出も交えて放送。家族そろって考える番組をお届けする。



#### いつか来る日のために~『あの日 わたしは』スペシャル リーダーたちの決断~(仮)

9月1日(日) 総合 後3:05~3:54

あの日、何を思い、どう行動し、どう生き延びたか。去年1月にスタートした「あの日わたしは」は被災した人の体験を5分に凝縮して放送、証言者は250人を超える。この貴重な証言から導かれる教訓を伝えるのが、半年に一度放送している特集番組「いつか来る日のために」。去年9月、今年3月に続いて3回目の放送だ。

今回のテーマは「リーダーたちの決断」。東日本大震災では多くの人が会社・学校・公共施設など、集団や組織の下で被災した。とっさの判断で避難場所を変えて助かった学校、日頃の訓練が子どもたちを救った幼稚園、極寒の屋上で避難者全員の命を守ったショッピングセンター。一刻を争う状況の中で生死を分けたのはリーダーの決断だった。多くの役割を担い、適切な判断が求められるリーダーたちの証言に耳を傾け、減災につながる知恵を読み解く。

【司 会】磯野佑子アナウンサー

#### こころフォトスペシャル “記憶”の森が命を紡ぐ(仮) 9月1日(日) 後3:55~4:38



東日本大震災で亡くなった人の写真と家族からのメッセージを募集し、放送やHPで紹介する「こころフォト」。今年1月の開始以来、100人以上の写真が寄せられた。「ひとりひとりの命を忘れない」という遺族の思いから始まった取り組みだが、次第に放送やHPを見た友人や知人が新たな写真やメッセージを投稿。亡くなった人の記憶が積み重なり、HP上にアルバムができつつある。また、面識がなかった遺族同士がつながり、誰にも言えなかった思いを打ち明ける人もいる。多くの犠牲を出した地域では、写真やメッセージがきっかけで亡くなった人の思い出を共有するようになったという。

番組は、仙台市出身の鈴木京香さんを案内人に、写真とメッセージを紹介。大切な人の死を受けとめながら、新たなつながりを通して一歩踏み出す人々の心の軌跡を描く。

## 花は咲くスペシャル 2013 秋 (仮)

9月11日 (水)

後10:00~10:49

復興支援ソング「花は咲く」が国内のみならず、海外でも聴かれ、歌われるようになってきた。

7月上旬、世界的に活躍する男性4人ボーカルグループ、イル・ディーヴォがブリュッセルで録音したのは「花は咲く」英語版。レコーディングに密着するとともに、独占インタビューも行った。ブラジル・サンパウロのジャパンフェスティバルでも、歌手マルシアさんが日系ブラジル人の子どもたちと「花は咲く」を歌う。東北3県の方も招かれ、日系の人たちと交流。歌を通して深いつながりが生まれている。



そしてこの夏、東北の沿岸15か所で同時に行われる花火大会のラストに「花は咲く」が流れることに。追悼と復興の祈りをこめ、どんな大輪の花を夜空に咲かせるのか。地元の人たちや花火師の思いをドキュメントする。そのほか、一般のみなさんが歌い継ぐ「100万人の花は咲く」や、被災地に花を植える活動も紹介。「花は咲く」に寄せる心温まる物語を伝える。

## Eテレ

### 東北発☆未来塾スペシャル「東北を応援するチカラ」

8月29日 (木) 後11:00~11:55



若者たちが震災からの復興に必要なチカラを学ぶ「東北発☆未来塾」。8月最終週は「東北を応援するチカラ」をテーマにしたスペシャルバージョン。いままできっかけがつかめず、復興活動に関われなかった東北以外の若者が集まり、「今からでもできる支援」について考える。

番組応援団長のサンドウィッチマンが、この夏宮城県南三陸町で行う、チャリティライブツアーに同行。その前後に南三陸で活動をしている様々な人々に出会う。震災3年目の今、何が求められているのか。どんな支援活動が可能なのか。サンドウィッチマンの2人の、被災地への思いや支援のノウハウもじっくりと伝える。

東北出身でなくても、何か特技がなくても、できることはあるはず！

「東北を応援するチカラ」を学んで、あなたも明日から動き始めよう！

### 学ぼうBOSA Iスペシャル「親子でチャレンジ！地震から命を守ろう」

8月31日 (土) 後4:00~4:59

自然災害がなぜ起きるのか、その仕組みを正しく知って、命を守ろう！

小学生~中学生向けEテレ番組「学ぼうBOSA I」が、「防災パーク2013」の特設ステージで防災教室を開催。番組で注目の慶應義塾大学准教授・大木聖子さんを講師に、親子で一緒になって地震への備え方を学ぼう、という内容だ。

番組MCはマギー審司さん(宮城県気仙沼出身)。会場の親子連れと一緒に授業を受け、地震のときに役立つ「ダンゴムシ体操」や、「落ちてこない」「倒れてこない」ところに隠れる方法を体験。起震車や避難所体験コーナーなどにも参加し、災害にあった時の対処法を伝える。



大木聖子さん

## ラジオ第1

### 防災の日特番

「その時、被災者は何を求めていたのか～東日本大震災から得たラジオ災害放送の教訓～」

9月1日(日) (前10:05)～11:50

「報道されない地域では救援が届かなかった」「被害状況だけではなく知人の安否や生活情報をもっとほしい」東日本大震災で寄せられた、テレビ、ラジオの災害放送に対する被災者の声だ。

こうした経験を基に、NHKではラジオセンター、編成、アナウンス室が共同で研究会を設置。被災地での聞き取り調査をして災害放送の見直しを図ってきた。一方、都内の大学でも被災者にヒアリングを行い、災害情報の伝達について研究が始まっている。

番組は、さいたま放送局に新設される「緊急時災害スタジオ」から生放送。「首都直下型地震」や「南海トラフ巨大地震」を想定して、被災地ではどのような情報が求められたのかを検証し「本当に役立つ災害放送とは何か」考える。同時にインターネットを活用した新たな災害放送の可能性を探っていく。

【司会】 出山知樹アナウンサー

### 関西発 いのちのラジオ～その時、あなたは誰とつながれますか？～(仮)

9月1日(日) 後1:05～3:30

毎年9月1日にNHK大阪放送局が関西の民放6局と共同制作している「関西発いのちのラジオ」。今年のテーマは“災害時の情報伝達”。情報の空白地帯となるのを防ぐため、今、どんな対策が進んでいるのか。「東日本大震災ではツイッターが役立った」と何度も報道されたが、今後の災害に向けてどんな活用策が考えられるのか。

番組はNHK大阪放送局のラジオスタジオから生放送。南海トラフ巨大地震の発生を想定したシミュレーションドラマを軸に構成。過去の事例や各地の対策などをNHK・民放各局リポーターのリポートや中継などを交えて紹介する。災害時に情報をやりとりしようとする中で起こりうる事態を検証するとともに、通信インフラの地震・津波対策が進む中、私たちはどのように情報伝達手段を確保し、ラジオ放送はどう連携できるかを考える。

【司会】 住田功一アナウンサー

## イベント

### 防災パーク2013

8月24日(土)～25(日) 会場/NHK放送センター

今年で7年目を迎えるNHK「防災パーク」。ことしも「“もしも”に備える“いつも”の防災」をテーマに、Eテレ「学ぼうBOSA!」ステージや「どーもくん防災劇場」、渋谷消防署による「消防クイズ」などのステージショーをはじめ、消防や警察の特殊・緊急車両展示、親子で体験参加できる災害疑似体験プログラムなど、首都圏で起こりうる自然災害に対して日常生活の中でどのような備えをすればよいか、家族で学べる機会とする。(入場無料)



(主催) NHK、NHKプロモーション、渋谷区、東京消防庁渋谷消防署、警視庁代々木警察署